グレースホームケア クリニック 医科新聞6月号

医療法人社団 慶育会
グレースホームケアクリニック 多摩
〒188-0011
東京都西東京市田無町5-9-1
Tel 042-452-3526
Fax 042-452-3525

ダニのお話

この梅雨入りジメジメ時期、湿度も温度も高くなり、蚊を周りで多く見かけるようになってきました。そんな中、ペットを草むらで散歩させて帰ってくると、ペットの体にダニがついている事に気がづくことがあります。そんなダニのお話。人にも吸血し、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）という、致死率も高いヴィルスを感染させる、マダニ、家内のソファーやカーペット、ベッド等にいてアレルギー疾患をもたらすコナヒョウヒダニなど様々な種類のダニがいますが、今回はヒゼンダニという種類を取り上げます。

ヒゼンダニとは？

ヒゼンダニの１種（主にイヌセンコウヒゼンダニ）が動物の皮膚に住み着き病気を起こさせます。タヌキなどの野生動物の感染が有名ですが、タヌキとの接触によりペットの犬やネコにも感染する恐れがあります。人の場合、感染した動物との接触や、生活エリアが重なる事で、一時的な痒みや発疹等の症状が出ることがありますが、症状は一過性で、動物に寄生しているヒゼンダニは人に寄生しても、人の体で繁殖することはできません。
それでは人間は大丈夫じゃないの？と思われますが、実は人に寄生して人の体のみで生きて「疥癬症」を媒介するヒゼンダニもいるのです。

人の体につくヒゼンダニ

ヒゼンダニと呼ばれる体調0.4mm前後の小さなダニが人の皮膚に寄生し人から人へ感染します。疥癬は一般的な疥癬（通常疥癬）と角化型疥癬（ノルウェー疥癬）の2タイプがあり、共にヒゼンダニによる寄生ですが、寄生数は通常数十匹であるのに対して、角化型は数百匹で、感染力が強く免疫力も低下し症状が出る部位も全身にわたります。
ヒゼンダニは人の手首、手のひら、指の間、わきの下、肘などに、横穴（疥癬トンネル）を掘ってその中に卵を産み付け成長します。
高温（50℃以上）や乾燥に弱く10分以上、そのような環境に置かれると死滅してしまいます。

潜伏期間・症状

感染者の皮膚、衣類、寝具に接触する事でうつり、潜伏期間は、通常、１～2ヶ月だが、角化型の場合は4～5日と早い。

症状としては、通常は疥癬トンネルや赤いブツブツが出て、激しい痒みを伴うのに対して、角化型は灰色～黄白色のザラザラして厚いカサブタ状で、痒みは個人差があり、全く痒みが出来ない人もいます。

検査方法

検査方法は、症状のある部位の皮膚をピンセットやハサミ等で一部取り、顕微鏡で検査します。血液検査などでは診断できません。

治療方法

飲み薬（イベルメクチン）を週１回服薬し、1週間後にもう一度服薬します。塗り薬ではスミスリンローションやオイラックスクリームを塗布。
かゆみ止めの薬（抗ヒスタミン薬）も症状によっては併用します。

症状は2週間程で軽減し、数週間～1ヶ月で通常は終息しますが、角化型では2ヶ月程かかります。
その後の皮膚チェック（3ヶ月～6ヶ月）もしましょう。

・同じ部屋で寝具を並べて寝ない
・長時間、感染者と肌と肌を接触させない
・寝具や衣類など肌に直接触れるものの共用を避ける

監修
多摩分院院長
加藤 富嗣